

豊かな体験活動推進事業ブロック交流会研究発表校  
小学校・勤労生産に関わる体験活動

「田んぼ学校の米作り」

三重県志摩郡志摩町立越賀小学校

1. 取り組みの内容とねらい

本校は伊勢志摩国立公園の南端の志摩半島にあり、南は黒潮香る太平洋、北は真珠のふるさと英虞湾に囲まれた豊かな海の幸と自然に恵まれた風光明媚なところにある。この事業については豊かな自然、人情あふれる人との交流、少子高齢化の中、お年寄りとのふれあい、地域の特性を生かした特色ある学校づくりをめざして取り組みを進めた。

本校の米作りについては今まで7年間続けられてきたのでそれなりのノウハウは持ち合わせていたが、教科や「総合的な学習の時間」での位置づけが明確でなかった。全校態勢でこの事業に取り組み、「生活科」や「総合的な学習の時間」において、米作りを中心とした子ども達の学びの場を作り出そうと考えた。米作りは米という字が八十八と書くだけあってたくさんの準備と作業がある。あまりおしきせにならないよう「おいしいお米を収穫して楽しい収穫祭やもちつき大会をやろう」「お米を使った郷土料理を作ろう」「『おじいさん、おばあさん達の敬老会にお米のプレゼント』や『もちつきで保育所の子ども達と交流』も大事にしていこう」という目標の下、地域の人々とのつながりを大切に農業経験者の方から教えを受けながら実施していくように計画を立てた。

米作りでのねらい

地域を見つめ直し、地域の人の仕事や経験に学ぼう。

田植えから稲刈りまでたくさん仕事がある。継続と段取りの大事さを学ぼう。

勤労体験活動はからだで覚える学びの場である。何事にもチャレンジしてみよう。

おいしいお米は苦労と汗の結晶である。たのしい収穫祭をやろう。

田んぼの生き物、メダカやトンボからも学ぼう。

米作りや郷土料理づくりで私たちの食生活を見直してみよう。

地域の歴史や文化にもつながりを見つけよう。



苗の植え方を教えてもらう



なれた手つきの田植えをする

2. 教育課程上の位置づけ

米作りにはたくさんの仕事の段取りが必要である。それぞれの活動が単発で終わるのではなく、継続して取り組むことでねばり強く働くことの大切さや根気強さがおいしいお米を作ることをみんなで確認し、「生活科」や「総合的な学習の時間」、各学年の授業ともリンクさせ、子ども達の意欲と関心を引き出す学びのしかけを考えた。

### 米作り体験と教育活動の関連

総合的な学習の時間 自然、環境問題、勤労体験、様々な人との交流、高齢者の福祉  
生活科 生きもの探検 おうちの人の仕事

理科 生き物観察、植物の生長、昆虫や水棲動物の観察、環境問題

社会 日本の農業、米作りの文化、米作りの歴史と文化

国語 作文や日記 観察記録 パソコン学習 算数 田んぼの面積 米の収量

### 米作り体験と関連教科の時間

学年	活 動 内 容	時 間 配 当
1,2年生	田植え 生き物観察 稲刈り 収穫祭 もちつき大会	生活 1 2
3年生	田植え 生き物観察 稲刈り 収穫祭 もちつき大会	総合 8 社会 2 理科 2
4年生	田植え 生き物観察 稲刈り 収穫祭 もちつき大会	総合 14 理科 4
5年生	田植え 草抜き 出穂観察 稲刈り 脱穀 収穫祭 敬老会お米プレゼント もちつき大会 植物の生長 昆虫やメダカの観察 環境問題 日本の農業 米作りの工夫 田起こし	総合 25 理科 7 社会 10
6年生	田起こし 田植え 草抜き 出穂観察 稲刈り 脱穀 収穫祭 敬老会お米のプレゼント もちつき大会 米作りの歴史文化	総合 24 社会 4
その他	観察記録、作文 学習発表会 インターネットを使った米作りの調べ学習	国語 4 特活 3 社会 6 (5年)

### 3. 活動の概要

米作りを通して学びを考える場として近くの農家の方から約6aの田んぼを借りて作業を開始した。今年にあたらしい田んぼで、一年間使われてなかったので雑草やがまの根っこがいっぱいあり、春休みにPTA役員、保護者にも呼びかけて田起こし作業を始めた。あぜ道にも新しい土を盛り、あぜ板を入れて修復した。ここを「田んぼ学校」と命名してスタートした。

- ・たいへんだった田起こし。
- ・大昔や江戸時代の水田作りを再現。
- ・職員も耕耘機の使い方を教えてもらう。
- ・人海作戦の足踏みしろかき
- ・どろんこ田んぼは楽しいな
- ・保護者の応援で力倍增。
- ・初めて使うしろかきの道具は全滅。やむなく手作りで補修
- ・どうにか田んぼの姿が見えてくる。
- ・田植えで、久しぶりに子ども達の元気な声が谷間に響く。
- ・1、2年生も参加し、一所懸命植えた。
- ・誇り高さどろんこ行進。



休耕田を起こしての田植えは一苦労だったが、米作りの苦労をからだで体験する。子ども達も自分が働かないと作業は進まない。なれない作業だったが自分から進んで仕事をししていく姿がたくさん見られた。どろんこの姿は子ども達の晴れ姿だった。

- ・早苗が、風に吹かれて気持ちいい。
- ・どんどん生える雑草軍団、ひえぬきの格闘。
- ・雑草は強し。
- ・負けるなみんなおいしいお米を守るのだ。
- ・水が足りないぞ、雨よふれ。
- ・毎日の水の管理は大事な作業。
- ・トンボのヤゴやオタマジャクシがいっぱい。
- ・メダカやザリガニもいるぞ。
- ・大きな青サギが網にかかる。救出作戦。
- ・稲の穂が出たよ。(出穂\*しゅっすい)
- ・夏休みもみんなで観察。黄色に色づいた稲穂。
- ・台風が心配だな。道行く人も上出来だとほめてくれる。



早苗の成長が著しい田んぼではたくさんの生き物が生きるために競争している。

農薬を使わず苗を育てるためには、何倍もの労力がある。そのことをからだで体験する。

- ・残暑の厳しいときだけど、台風を避けてみんなて稲刈り。二学期には一、二年生も参加。
- ・ちくちくするけど実りが一杯でうれしいな。
- ・鎌の使い方はうまくなったけど稲束の縛り方がまだまだ。稲束作りがたいへん。
- ・一輪車と軽トラックに乗せて運搬。
- ・学校のまわりのガードレールは稲穂で一杯。
- ・エンジンばたばた脱穀機。手元にかかる力を感じながら丸一日の脱穀作業。収穫量 240kg



子ども達はもちろん、私たち職員も農作業の

はじめからから終わりまで丸ごと体験する。たくさんの経験を積んだ。この後、収穫したお米で収穫祭やもちつき大会を実施し、とれたお米の 50kg を敬老会のおじいさん、おばあさん達をお祝いする赤飯にプレゼントをした。感謝され、充実した実りの秋だった。

#### 4. 活動の評価方法

今年度初めて「総合的な学習の時間」の評価について実施する年である。当初は子ども達の活動の姿を丸ごと評価し、それぞれの作業で子ども達がんばった様子を文章で評価する方法だったのだが、「子ども達につけさせたい力」を明確にし、評価をより具体的にということで、子ども達の活動をよく分析して次のような評価の観点を考えた。

- 自分の調べる課題を追求する力
- 仲間と力を合わせて取り組む力
- いろいろな人と豊かにつながる力
- 発表の内容を的確にまとめる力
- 自分の思いを豊かに表現する力
- みんなにわかりやすく伝える力

これらの観点をそれぞれの活動の中で見届け、子ども達の活動意欲を育てていくことにした。



## 5. 学校支援委員会の組織・運営

米作りは、とても学校だけでできるものではなく、保護者や地域の方々から支援をしていただくことで学校支援委員会を立ち上げ、PTA役員や地域の代表者、農業経験者、JAの営農指導員の方々から協力していただいた。

何より心強かったのは営農指導員やゲストティーチャーの方々の協力であった。田植えや水の管理、草刈りの指導などたくさんの指導をしていただいた。このつながりのお陰で子ども達の頑張りに対する評価を各方面からいただき、学校の活動に対しても理解と協力の輪が広がった。



## 6. 推進地域としての取り組み

推進地域として3つの小学校と2つの中学校、1つの高等学校が連携を取りながら進めてきた。その中でお互いの取り組みの情報交換をするとともに、小学校での自然体験や勤労経験の成果を中学校での職業体験などの活動に生かし、高校での進路選択につながる就労体験活動につなげていく道筋を「地域・ふれあい、小・中・高の連携」として考えた。

また、水産高校の協力で「小学生の実習船乗船体験」や「公開講座での体験活動」等多様な活動が連携して進められ、地域の子も達や教職員、保護者の交流が進められた。

## 7. 活動の成果

春の田起こしからもちつき大会までたくさんの仕事があり、子ども達や教職員で力を合わせ、ゲストティーチャーの方からたくさんのご指導をいただいた。PTA役員や保護者の協力もたいへん心強かった。子ども達の働きぶりもどんどん向上し、たくさんの気づき生まれ、稲穂の成長を見守る根気強さができ、田んぼにすむ生き物にもいろいろな関心が出てきた。そして体験から学んだことは

米作りにはたくさんの作業がある。

一つ一つの仕事を丁寧にしていかないと後で時間がかかる。

何事も体験。私たちの腕にはたくさんの経験が残っている。

作業はかけ声、みんなでやれば元気が出る。

収穫祭やもちつき、みんなで食べるとおいしさ百倍。また頑張ろうの意欲あり。

これらの成果をもとに日々の生活を振り返り、お世話になった方々とつながりを広げ、自分たちの住む地域を愛する心を育てていきたいと考えている。



## 8. 今後の課題

今回は全体のスケジュールと活動を見通すのにやや時間がかかった。作業を進めつつ振り返り、次の課題を考えるということも多くあったので、これからは学年の状況に合わせて「学びの場」を積極的に設定し、他の教科との関連も考え、多様な展開を進めていきたい。

また、米作りの活動は地域の人との様々なつながりが考えられ、広くは日本の農業や環境問題などを考える大きなテーマを含んでいる。ホームページで米作りプロジェクトなどを立ち上げ、それぞれの課題や成果を交流していく場を広げていきたいと考えている。